

# 実践例「学校・学級経営の深化・充実」

## 「課題1 確かな経営理念の確立と地域に根ざした特色ある教育計画の創造」

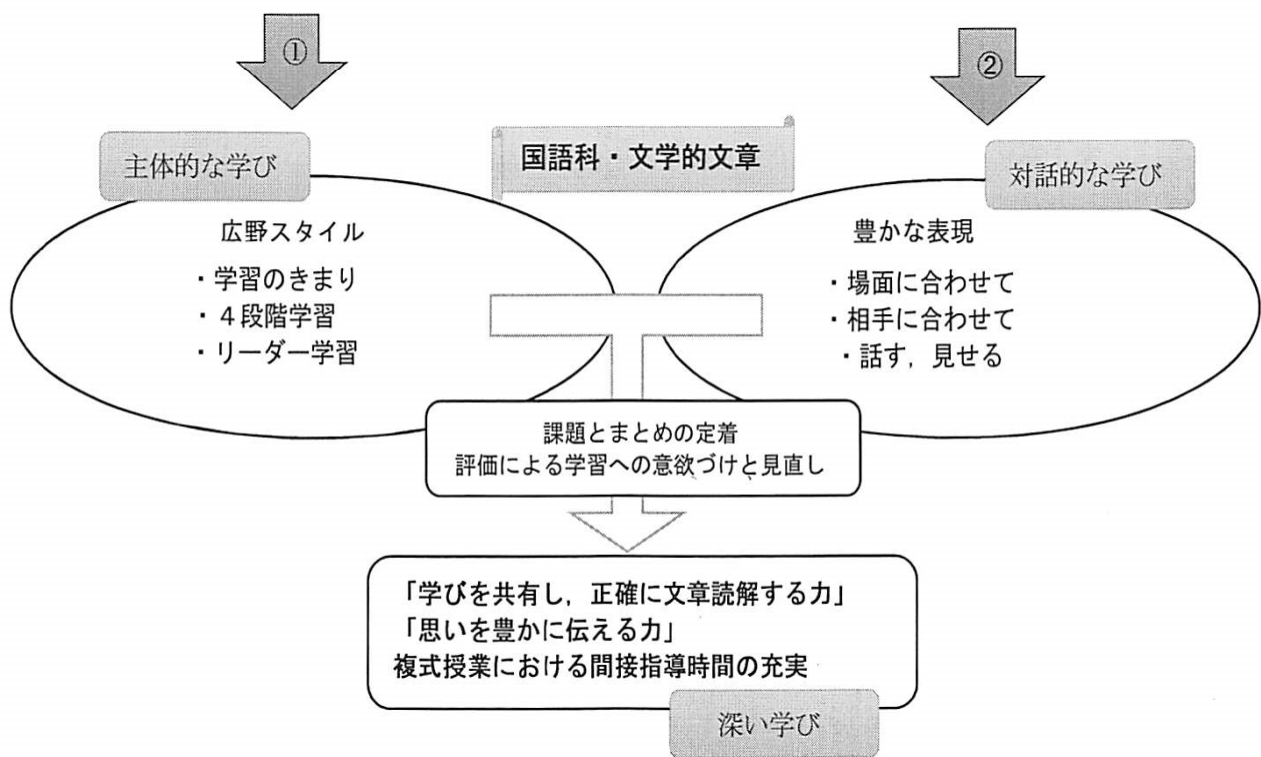
### I. 学校名 帯広市立広野小学校

### II. 研究の概要

1. 研究主題  
『豊かな思考を表現する「つなげる力」の育成』  
～学びを共有する「広野スタイル」の確立～（1/2年次）

2. 研究仮説  
(1) 学びの過程を共有し、見通しをもって学習することで主体的に学び、相手意識をもって考えることができるであろう。（今年度重点）  
(2) 様々な表現方法を知ること、思いを効果的かつ的確に表現することができ、学びを深めることができるであろう。

〈めざす子ども像〉  
～話し合い活動を通して学びを深める子～  
① 見通しを持ち、情報を共有しながら主体的に学習を進めることができる子ども  
② 方法を工夫し、豊かにつたえることができる子ども



### Ⅲ. 実践例

#### 1. 複式指導方法の研究

本校の通常学級は4学級で、そのうち5・6年学級のみが複式学級である。しかし、次年度以降は複式学級の増加が予想されるため、複式の指導方法を単式学級でも実践している。今年「広野スタイル」と名付けた学習過程・学習規律を全学級で実践した。

#### 4段階学習過程（広野スタイル）

学習過程を固定することで、学習過程の見通しを持つことができ、主体的に学習することができるようになる。複式授業における間接指導の時間を充実させるために、全校的な取り組みとする。

学習過程	学習活動
つかむ（課題把握）	本時の課題をつかみ、解決への見通しをもつ。
考える（解決努力）	既習事項や新たな考えを生かし、問題解決に取り組む。 学び合いを通して考えを明らかにしたり、深めたりする。
わかる（まとめ・定着）	結果を交流し、学習を見つめ、学習事項がわかる。
つなげる（習熟・応用）	学んだことを振り返り、理解しようとする。 練習問題を通して、学習内容が定着する。 自己評価を通して次の学習への意欲をもつ。

※次の時間へとスパイラルで学習が進む。

#### ◎複式学級における学習過程（例）

##### （1）ほぼ同じ割合で、直接指導を行う場合

下学年	教師のわたり		上学年
学習過程			学習過程
つかむ	直接指導	間接指導	つなげる
考える	間接指導	直接指導	つかむ
わかる	直接指導	間接指導	考える
つなげる	間接指導	直接指導	わかる

##### （2）同時間接指導を行う場合

下学年	教師のわたり		上学年
学習過程			学習過程
つかむ	直接指導	間接指導	つなげる
考える	間接指導	直接指導	つかむ
	同時間接指導	同時間接指導	
わかる	直接指導	間接指導	考える
つなげる	間接指導	直接指導	わかる

※割合は一定ではなく、学習内容によってどちらかの学年に重点が置かれ、直接指導の割合が多くなる場合もある。

## 2. ICT の活用

これからの子どもたちに育成すべき資質・能力の一つとして、次期学習指導要領では「知っていること・できることをどう使うか」という力を示している。

本校では新しい時代に必要となる資質・能力を育み、児童の思考・判断を、豊かな表現へ「つなげる」ことができるよう、授業のあらゆる場面でタブレットなどの ICT 機器を活用した授業を展開したいと考えた。児童の「つなげる力」を育成だけではなく、本校職員が先行研究として ICT を効果的に活用することで、近隣校はもちろん、帯広市全小中学校へも実践を「つなげる」ことができる。

### ① 本校の ICT 環境

本校 ICT の環境は、ここ数年で急速に整備が進み、各教室に TV と実物投影機が常設された。また、今年度は、帯広市教育研究所研究実践協力校およびパナソニック教育財団の実践研究助成校となり、他の助成と合わせてタブレット端末等を揃えることができた。導入にあたっては以下のような課題があったが、一つ一つクリアすることができた。

- ア. インターネット環境にない中でのタブレットの初期化、アップデート、アプリの入手、端末のパスワード設定
- イ. タブレットを保護するケースやペン保護フィルムを貼る作業
- ウ. 学級ごとに使用する割り当ての準備 児童が使用する際の約束ごとの確認
- エ. タブレットを保管するケースや場所(鍵付き)、充電する場所の確保

現在は教育委員会の協力により Wi-Fi が使える環境になり、当初に比べると使用しやすい環境になった。今後は、学年に応じた系統的な情報教育を計画する必要がある。

ICT 活用授業研究会の様子(9/26)



### ② ICT 活用授業研究会の開催

9月に ICT 活用授業研究会を開き、4 学年の算数「広さ」を公開した。公開に当たって、「ア. 写真画像に書き込めること。」「イ. 教師側から課題を一斉配布し、ipad を使って学びの共有をはかること。」の 2 点をクリアするために、無料のノートアプリのダウンロードやロイノート school (アプリ) の活用を試みた。しかし、アはクリアできても、イのインフラ設備は本校の既存設備では限界で、授業に支障をきたすことが多々あった。そこで、CHieru 株式会社とコンタクトを取り、授業支援ソフトの導入・設定をしてもらい、両方クリアすることができた。

### ③ 複式校における ICT 活用の今後の展望

小規模校における ICT の活用は今後さらに必要になってくると考える。複式学級において、教師が直接指導につくことができない時間帯に、タブレットでドリル系アプリを使えば定着問題に取り組むことができる。本校は今後、LINS 株式会

社のドリル系アプリも試用しながら ICT を活用した授業を進めていく予定である。

### 3. 地域に根ざした教育活動～社会に開かれた教育課程の実現に向けて

#### ①ポロシリ農園

本校では児童の学びの場である「ポロシリ農園」の整備はPTA育英部が行っている。また、畑の先生は農家であるPTA役員が行い、今年は機械による培土作業も見学させてもらった。毎年10月に行う「ポロシリ農園収穫祭」は毎年農園で収穫した野菜を保護者、地域の人たちに料理や学習の成果を発表する場となっている。今年度、低学年はipadで撮った写真を使った「野菜当てゲーム」、中学年はロイロノート school(アプリ)を使った野菜の成長の観察発表を行った。高学年はじゃがいも・かぼちゃを使った料理を自分たちで考えふるまった。

#### ②地域人材の活用

このほかにも、今年度は地域人材をたくさん活用した。まず、八千代中学校の宮村孝雄校長を講師に「走り方教室」を開き、増田涼太教諭に次年度からの教科書を活用した「外国語活動」を指導してもらった。今年で47回目となるえりもの笛舞小学校との交流には、スカイプを使って事前交流を行った。そして、保護者を中心に「酪農体験」「農業機械乗車体験」「友情ピザづくり体験」(広野産小麦・広野産アスパラ・いも・笛舞からのかに・つぶなど)をさせていただいた。また、ポロシリパークゴルフ場を活用し、地域の同好会の皆さんを講師にパークゴルフ体験を行ったり、グループホーム「広野の家」との交流や、「広野保育所」との交流も行ったりした。さらに、生涯学習推進委員会による地域住民との「バス学習」を行い、今後も「百人一首」「スキー学習」が予定されている。児童の祖父母による「昔を学ぶ会」では育てた大豆を「唐箕・唐棹体験」で脱穀する予定である。こうした地域社会とのつながりを教育課程につなげたいと考えている。

## IV. 成果と課題

今年度の学校経営の成果として考えられるのは、「複式指導方法の研究」と「ICTの活用」であり、両方とも「複式教員研修塾」(10・17)、「ICT活用授業研究会」(9・26)という形で帯広市や十勝管内に発信することができた。また、1年生が国語の時間に「けんかした山」を「保育所の友達にきかせる」という目標をもって練習して交流会を行ったり、6年生がファンタジー物語を作って1年生に読み聞かせるなど、学年を越えた活動ができたことも特徴的である。総合的な学習の時間にポロシリ農園で作った大豆も、特別活動である「昔を学ぶ会」で使われる予定であり、教科の枠をこえる取組も行われた年となった。

次年度は全職員でカリキュラム・マネジメントを行い、これらを教育課程に位置付けていくほか、総合的な学習の時間を中心とした視覚的なカリキュラム表を作成する予定である。